

第18回 歴史&ハイキング愛好会例会 実施報告書

～上総国分寺(千葉県市原市)を訪ねて～

番世話人 宇田川修祐

晴天に恵まれた3月25日(土)10時、JR内房線五井駅に参加者22名が集合。駅前からバスを利用し本日の見学案内「かずさのくに国府探検会」ボランティアガイドが待つ、上総国分寺史跡に向かいました。

国分寺は奈良時代の天平13年聖武天皇の詔により、国の平和と繁栄を祈るため全国60余箇所に建てられた僧寺と尼寺からなる国立寺院で、地方の仏教や文化の中心をなしていましたが、300年程で民衆の支援がないまま崩壊し、今では奈良の東大寺だけが現存し、残りは史跡を残すのみになっています。中でも上総国分寺は全国有数の規模を誇り、特に尼寺は寺域が全国で一番広く、発掘調査によって、付属施設を含めた古代寺院の全貌が初めて明らかになった国分尼寺跡として、昭和58年と61年に遺跡の主要部が国の史跡に指定されました。

市原市は、平成5年度に尼寺の復元中門と展示館を、平成9年度に回廊を復元建築し、一般公開しています。

地元ガイドの流暢な説明、そして参加会員の探求心から湧き出る鋭い質問の応酬で国分寺の認識を新たにしたりした一日でした。

☆ 「かずさのくに国府探検会」ボランティアからの史跡説明



☆ 竹林を抜け上総国分尼寺跡展示館に向かう



☆ 復元された国分尼寺跡





参加者（敬称略） 22 名

岩田芳秀、植野郁夫、小澤敏宜、川島省三、川股賢三、白岩仙一、住田勝治、田代 周、
 中島公一、野田 佑、橋本裕一郎、平木行雄、平木七重、藤井弘道、牧田賢二、六角 学、
 山田昌之、湯浅尋夫、宮地秀幸、浦上宜明、宮武 亨、宇田川修彦

☆ 国分寺七重塔心礎に向かう

